イラスト倶楽部

♥イラストははがきに黒一色ではっきりと。薄い鉛筆書きはボツにします。
◆ペンネーム希望の人も住所、氏名、年齢を忘れずに。採用分には粗品を進呈。
♣締め切りは毎月15日。それ以降に届いたものは翌月に回します。
♠あて先　〒950－12　白根市大字白根1235　白根市役所広報しろねイラスト係

▼P.N 28さん（大通南）

▶近藤このみさん（沖新保・7歳）

▲P.N 羽志さん（桜町1・14歳）

▲P.N たけるさん（高井東）

◀P.N 綾小路里織さん（上茨・14歳）

市民文芸

俳句

鬣鬣と神輿先導して天狗　公條　雪夫
蓮は散り初め鬼蓮は咲き初むる　樋口　トシ
蜩に急かされてゐる夕厨　木村　トリ
剣葉を鋭く立てて稲は穂に　安沢　飛浪
美しき燐寸の焔夜の霧　豊木サダ子
秋扇結婚式の控の間　小林　光子
茎漬けて昨日と同じ今日のあり　成沢　素明
子を負うて子供神輿の蜜内役　五十嵐　寛吾
雨降ると予報信じて大根蒔く　小林　すみ
いつまでも青きりんごの和泉やうな人　伸子
月に童画のきざしか萩こぼる　間島きよ子
秋の虹母は背ナより老いしかな　真島つぎえ
山寺の除わしき坂や萩の花　小林　なお
秋の虹片脚佐渡に置いて消ゆ　遠藤　大蔵
萩の庭踏み入る隙のなかりけり　小林冨沙子
倒れ萩括るにまどう風のあり　金子　千代
白萩や東堂にある侘住居　塚本　静子
地をなぞる風あるままに萩の花　田中美根子
仏舎利の丘に片脚秋の虹　丸山　虚秋
秋の虹また回りだすもぐら除け　閤島　秀穂

短歌

秋空にかがやく北斗七星を
よぎりて小さく航灯光る　出来島　ミサホ
輝いくつ死なせし夏の逝く日々に
地の上の孔の闇深く見ゆ　大籏　イツ
航雲の鋭く伸びる先端に
機影煌めく小春日の午後　阿部　テイ
色彩の乏しき老いの衣着ると
紅さし化粧えば若やぐがごと　星　ハツノ
「パパ画いて」ママにお絵かきせがむ児が
我が画くパパを「こわぁーいよ」
と言う　阪井いくの
延命は致しませんと医師の云ふ
黙って我は頭を下げぬ　鍬　淑子
背の花優賞の次に出産と
年増女房嘆く我が妻　小出熊四郎
老いてしも昔習いし粕漬を
味楽しみつ今日は漬込む　小出よしの
荒海よ岩に打ち上げ波の花
浜風が吾れの肩を叩きたり　長谷川久二
最終のオクラとあらぼ末枝の
ミニミニまでも皆摘みて来ぬ　中村　京

川柳

風花に口付けをしてペダル踏む　中村　尚治
剃刀と言われた人の呆けを知る　西条　ムラ
滅亡が徒労になった秋味覚　早川　英男
八十の坂で極楽見えるかな　山岡　フミ
子が巣立ち年金私だけのもの　吉川　彰
タクト振る妻は音符が読めません　今井七郎
秋刀魚焼くチロロの声も深みゆく　織田　福治
結び目が解けず明日の風を待つ　織田　セツ
ダイエット秋の味覚が恨めしい　大谷　龍吉
子から金借りて利息が高くつき　後藤マサノ
明日また逢えると思うローヒール　佐藤トミノ
古枯らしに思慕を絡ます雪の夜　佐藤　ヨキ
滅反の蜜山子が恨む穂のうねり　田村　恒夫
冬支度終り南瓜と待つ冬至　高橋祐四雄

※十月一日号の田中恭子さんの短歌は「華やかな大型店舗に隠れたるきびしき裏面パイトにて覆る」の誤りでした。お詫びして訂正します。

広報クイズ

〔問題〕
❶改築された大鷲地区学校給食センターで、調理する給食は1日何食？（ヒント＝6ページ）
A＝1、600　B＝2、000　C＝3、300
❷高齢者の知識と技術を社会のために役立ててもらおうと昨年発足したのは何人材センター？（ヒント＝8ページ）
A＝ゴールド　B＝シルバー　C＝ホワイト
❸喫煙が原因で死亡する人は交通事故死亡者数の何倍？（ヒント＝16ページ）
A＝10　B＝20　C＝30

〔応募方法〕はがきに答え、住所、氏名、年齢、ご意見を書いて白根市役所広報係（〒950－12　白根市大字白根1235）へ。締め切りは11月17日(金)（必着）。正解者の中から抽選で5人に500円の図書券を、3人に県立自然科学館招待券をペアで差し上げます。

〔当選おめでとう〕先月の正解は❶A❷A❸Aでした　〔図書券〕山田政直（茨曽根）　風間ヨシミ（能登）　富山友子（水道町）　石丸葉子（大通南）　加藤トシ（魚町）　〔自然科学館招待券〕田巻踊子（下八枚）　栗原真姫子（七軒）　伊藤裕子（戸頭）

今月のハガキから

○私は時々図書館を利用させていただいている者です。以前は、訪れるたびに履物が乱雑になっていました。しかし最近、注意書きを張り出してからはきちんと履物がそろえてあります。小さいことですが、気分がさわやかです。利用者の一人としてお礼申し上げます。（T）
○稲わら公害といわれ、焼却しないようにと提唱されているのに申し訳ないのですが、あの煙と匂いに、しみじみ秋を感じます。彼岸花が咲き乱れる畦道、暗くなるまで遊んで叱られた少年時代の秋の一日がよみがえります。（S）

Talk&Talk

市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係（〒950－12　白根市大字白根1235　白根市役所企画財政課）です。

傘を貸してくれた中学生

笠原幸子（上鷲ノ木）

昭和六十年二月二十八日夕暮れ、父の入院に付き添って、自宅に帰るときのことです。晴れていた空からは急に雨が降り出し、夕方には雪混じりの大雨になっていました。

私はすっぽりマフラーをかぶり、夕暮れのバス停へと急いでいました。久しぶりに行ったバス停は、待合所が取り壊されて、雨宿りもできず、心寂しく冷たい雨雪にぬれていました。折よく男子中学生が二人で、一本の赤いビニール傘をさして私のそばに寄ってきてくれました。いろいろ話をしているうちに「鷲ノ木行きならまだだいぶ時間があるから、私の傘でよかったらどうぞ」と言いながら、赤い傘を私の前に差し出し、冷たい雨の町に消えてゆきました。それにしても行き詰まりの私に、傘を差し出してくれた中学生の思いやりがうれしく、幾度もお礼を言ってお借りしていました。

名前も聞かずに別れた中学生に、発車までに会えず、バス停のベンチに傘を置き、居合わせた人たちに頼んで、バスに飛び乗ってきた私が恥ずかしく、「一度お礼を」と思いながら十年が過ぎ去ってしまいました。

今も折りに触れて、温かい心の中学生を思い出し、「もう立派に成人されたであろうな」などと思いながらあの優しい二人の前途が明るく開けていくことを願い、紙面をお借りして今一度「ありがとう」を心から申し上げて、お礼の言葉に代えさせてもらいます。

一口メモ

東樹友次（鯵潟第1）

多数を頼んでやる非道が横行し、平和を唱えながら「戦う」という文字がはんらんしている現代。子供の自殺者が多く出ているが、子供に夢のない社会をつくり出したのは私たち大人の責任だろう。未来を背負う子供たちにしてやれるのは、子供が未来をのぞき得る一つの窓－大人の生きざまを見せることだ。

老後は自分のことを考えて、当然のように年金をもらい、責任を果たさずに安閑と暮らすなんてとんでもない。理想を失うと老衰が押し寄せてくるが、一日また一日生まれ変わろうとする努力が大切だ。生きているうちは、人間誰かに借りを作っている。その借りを返していき、誰かと手をつなぎ、つないだ手の温かみを忘れないで朝に夕に生き生きとするのが、私たち高齢者の心構えであろうかと思います。どうぞ、今日も明日もあさっても、この気持ちを忘れずに生きようではありませんか。洗っても洗っても汚れ易いのが我が心。花の陰赤の他人はなかりけり。

白根っ子になって十年

渡辺紀久子（みの口）

「あんたさん、まじめにまだ詩吟を続けているなるかね」と道で見知らぬ人から声を掛けられて、ちょっと驚きました。

九年前、白根に移り住んできたころ、限られた人しか知りませんでしたが、公民館活動の案内に、「詩吟」があるのを見て、かねてから興味がありましたので参加しました。その後、発展して詩舞や剣舞も詩吟に合わせて習うようになりました。

以来、老人福祉センター、カルチャーセンター、産業厚生会館などで発表する機会があり、同好の方々との輪も次第に広がって参りました。今では、友達の友達は皆友達といった具合で、白根での生活の楽しみも一段と増しております。

先日も、友人のお嫁さんから「まあ、奥さんも白根弁を出しなさったわね」と言われ、私もいつの間にか白根っ子の一人になりつつあると思い、たいへんうれしく思っております。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。